

新入生合宿研修の設計と実践

— 2011 (平成 23) 年度 社会領域専攻の事例 —

香川 貴志¹⁾・荻野 雄¹⁾

Planning and Practice of University First-Year Students' Camp — A Case from the Department of Social Studies in 2011 —

Takashi KAGAWA and Takeshi OGINO

抄 録：多くの大学で実施されている新入生合宿研修は、多大な成果をもたらす大学の行事として位置づけられる。期待される成果とは、大学への帰属意識の増進、学生間の相互理解の促進、専門領域への関心の深化などである。その一方、新入生合宿研修の立案や実践が引率教員に多大な負担を強いるのも事実である。本稿は、こうした負担をできるだけ軽減するために、平成 23 (2011) 年度における社会領域専攻の新入生合宿研修の概要をまとめ、以降の糧とすることを目的としている。特に学生による新入生合宿研修の評価アンケート結果の分析は、行き先の選定から始める教育実践に多大な貢献が期待できる。

キーワード：新入生合宿研修、帰属意識、相互理解、京都教育大学

I. 新入生合宿研修の意義

大学入学直後の新入生は、多くの者が入学前の受験勉強から解放され、いきなり自由度の高い世界に飛び込むことになる。履修要件が厳しくタイトな教員養成系大学・学部においても、高校時代とは比べられないほど時間割編成上の自由度が高い。そして京都教育大学も決してこの例に漏れない。

実家を離れて下宿生活や寮生活を初体験する者も多かろうし、恵まれた時間を活用して課外活動やアルバイトに励む者も多い。こうした急激な環境変化は、新入生にとって刺激が強く、放置しておけば生活リズムを崩したり、勉学に対する情熱を減退させたりすることも危惧される。それを少しでも緩和させ、また新入生を大学生生活に馴染ませ、さらに入学時の意欲を一層高めさせるため、新入生合宿研修という行事が多くの大学で行われている。

とりわけ学生の将来の進路を考えると、教育学部の場合は、業種だけでなく職業や職務内容に至るまで、学生にとって共通する具体性に満ちた目標がある。したがって、個々の学生が主体性を保ちながら互いに切磋琢磨できる環境を整えておくことが大切である。まさに堀 (1981) が主張した「自立と連帯」が重要になるわけである。

1) 京都教育大学

ところで、全国的にみた新入生合宿研修の起源は定かではないが、田村・遠藤（2000）によると北海道教育大学釧路分校では1978（昭和53）年から新入生合宿研修を実施しており、上述した堀（1981）は福島大学で1981（昭和56）年度に実施された新入生合宿研修の詳細な記録を残している。京都教育大学では1990年代の初頭まで、主に新入生が一週間にわたって参加する水泳訓練という行事を京都府丹後地方の天橋立で実施していた経緯があり、その廃止とともに新入生合宿研修が始められたようである。つまり、京都教育大学における全学規模の新入生合宿研修は、2011（平成23）年度で約20年の実績を持っているといえる。しかし、学内において新入生合宿研修を体系的にまとめた記録は皆無に等しく、各専攻が毎年くりかえし悩みながら新入生合宿研修の設計をしているのが実情である。こうした傾向は、他大学に目配せしても同様で、上述した数少ない先例の他は、各大学の広報誌で実施報告が僅かになされる程度である。

そこで本稿では、社会領域専攻における2011（平成23）年度の新入生合宿研修の設計から実施までの詳細を記録し、今後に一層の改善を図っていく糧としたい。大学全体の新入生が同一の目的地で同じイベントをこなすものでないため、稲村（1990, 1991）のように入学動機や将来の希望を調査することはできないが、特に50名程度より少ない人数での新入生合宿研修の設計をめぐることは、本稿は有益な資料になるはずである。

Ⅱ. 2011（平成23）年度新入生合宿研修の設計と準備

京都教育大学における新入生合宿研修は、宿泊先をおおむね近畿圏内に限定し、1泊2日の日程で実施される。合宿の候補日は前年度の秋季から冬季にかけての教授会で告示されるが、実施日は新年度5月中旬～6月上旬の3つの候補日（おおむね隔週の土日2日間で設定）に限定され、各専攻が候補日から一つを選ぶことになる。引率教員を決めるのは各専攻の裁量に任されているため、社会領域専攻では引率教員の都合に応じて日程が設定される。過去の実施状況を2000（平成12）年度について集約すると表1のようになる。表中の2005（平成17）年度までは他専攻（たとえば旧課程における言語・社会教育系の日本語文化専攻や欧米言語文化専攻など）との合同実施もあるが、2000（平成12）年度以降に新入生合宿研修が実施されなかった年度は無い。

2011（平成23）年度については、社会領域専攻内の輪番制に基づいて、引率教員が香川と荻野の2名となった。最近の社会領域専攻では、新入生の担任が引率教員を務めることになっているため、新入生にとって戸惑いが少ない環境が整備されている。なお、今年度の実施日は、香川の学外での所用が先約で入っていたため、まず実施日が5月14日（土）・15日（日）となった。行き先と諸行事は主に香川が設計にあたった。その際、地理歴史的分野と公民的分野のいずれか片方に偏らないように努め、京阪奈文化学術研究都市を目的地に選定した（図1）。訪問予定地は、国立国会図書館関西館（以下では国会図書館と記す）、けいはんな記念公園、きつづ光科学館ふおとん、以上の3箇所とした。国会図書館では分野を問わない学術的な基盤を理解させること、けいはんな記念公園では開放的な場所での散策を楽しみつつ相互理解を図ること、きつづ光科学館ふおとんでは教員就職希望者が多い実情を鑑みて子ども向けの科学施設を

表 1 新入生合宿研修の実施場所等（社会領域専攻およびその前身となる専攻について）

年度	引率教員	行き先	宿泊
2000（平成 12）年度	香川, 小寺	グリーンパル南山城	同左
2001（平成 13）年度	杉村, 田岡	グリーンパル南山城	同左
2002（平成 14）年度	辻, 平石	グリーンパル南山城	同左
2003（平成 15）年度	水山, 八塚	グリーンパル南山城	同左
2004（平成 16）年度	山下, 和田	グリーンパル南山城	同左
2005（平成 17）年度	伊藤, 荻野	グリーンパル南山城	同左
2006（平成 18）年度	香川, 田岡	石山寺, 滋賀県文化ゾーン, 延暦寺	アープ滋賀
2007（平成 19）年度	武島, 武田, 土屋	近江八幡, 伊賀もくもくファーム	伊賀もくもくファーム
2008（平成 20）年度	土屋, 平石	琵琶湖博物館, 伊賀もくもくファーム	伊賀もくもくファーム
2009（平成 21）年度	八塚, 吉江	飛鳥	祝戸荘
2010（平成 22）年度	石川, 山下	明治の森箕面国定公園	国定公園内の宿坊
2011（平成 23）年度	荻野, 香川	京阪奈文化学術研究都市	けいはんなプラザホテル

注 1) 引率教員については各年度とも 50 音順に配列し職名を省略した（旧専任教員を含む）。
 注 2) 他専攻との合同実施年度（2005 年度まで）についても引率教員は専攻内教員のみを記した。
 注 3) 2005 年度まで石川と武田は環境学コース（総合科学課程）の合宿研修を担当していた。



図 1 2011（平成 23）年度 京都教育大学社会
 領域専攻新入生合宿研修のコース
 （平成 17（2005）年 2 月 1 日発行
 1/200,000 地勢図「京都及大阪」に加筆修正）
 太実線：5 月 14 日（第 1 日目）午前のコース
 太点線：5 月 15 日（第 2 日目）午前のコース
 （午後は一部を除いて往路と同じ）

体験させることを各々の狙いとした。また、1日目のチェックイン後に1時間程度の時間を設け、教員という職業に関する講演会を企画した。講師は、京都教育大学を卒業後、立命館大学大学院文学研究科修士課程地理学専攻に進み、大阪府において長年にわたって高等学校教諭・教頭・校長を歴任して、退職後に私立の通信制高等学校で勤務経験のある中田 哲氏にお願いした。

宿舎に関しては、キャンプ場のような青少年研修施設と一般宿泊施設の双方を比較したが、前者を利用した従来のケースにおいて「小中高の時に同じような施設を利用して食傷気味である」という意見が散見されたため、今年度はそれと対極的なホテルの利用を試してみることにした。ホテルは価格が相対的に高いというデメリットがある一方、ツインやトリプルの部屋で小分けにできるため、新入生の男女比が不明な段階から仮予約をしやすいというメリットがある。その是非については、後述する学生が回答したアンケート結果の分析で改めて触れることにする。

目的地が決定した段階で、2011年1月中旬に再び引率者の打ち合わせを持ち、利用交通機関を借り上げバスとした。公共交通機関を利用する場合は各自の実費負担となるが、借り上げバスの場合は公費支出が可能で、学生から集金した合宿研修費用の節約を図れるからである。また、全体のタイムテーブル、宿泊施設や訪問予定施設との交渉分担を決めた。今回は香川の居住地が目的地に近いので、国会図書館だけを荻野が担当し、その他の諸施設については香川が担当することにした。

宿泊施設と訪問予定施設の予約や連絡は、前期日程入試の合格発表が終わった段階で始めたが、これは少し遅かったと反省している。仮に青少年研修施設など公共性の高い施設を利用する場合、もう少し早い段階で仮予約に取り掛からないと予約ができないことも考えられるからである。ただこの場合は、まだ男女比が不明なので、最近の傾向を踏まえての概数での仮予約が必要となろう。さいわい今回は、学研都市内にある「けいはんなプラザホテル」を仮予約できた。ただし、1泊2食の料金(税・サ込)が8,000円だったため、高速道路の通行料金、講師謝礼、諸施設の利用料(会議室利用料金、公園有料エリア入場料金)などで2,000円の追加負担を新入生諸君にお願いせざるを得なかった。追加負担金の徴収については「基礎セミナー」担当者(石川 誠)が行った。

訪問予定施設のうち、国会図書館は、施設見学ツアーが設定されていない土曜日ということもあり、実施日が近付いた段階で再度の依頼を試みた。結果的には合宿研修の1週間前に特別な配慮で施設見学ツアーができることになったが、国会図書館には多大な負担をお願いすることになり深く反省している。学生に見学させるには大変に有意義な施設であるが、現状では第3土曜日を除いて施設見学ツアーが設定されていないため、合宿研修の設定日によっては見学が現実的に不可能である。

合宿研修に先立って立案した全体計画は表2に示すとおりである。この計画は、合宿研修の実施当日においても、ほぼ予定通りに進行した。

表2 新入生合宿研修のタイムテーブル

2011（平成23）年度 京都教育大学	
社会領域専攻 新入生合宿研修	
日程：5月14日（土）～15日（日） 関西文化学術研究都市 引率：香川貴志・荻野 雄	
5月14日（土）	
9：30	掲示板前（学生課の斜め前）に集合【時間厳守】。集合後すぐに貸切りバスで宿泊先（けいはんなプラザホテル）へ移動。
10：20	けいはんなプラザホテル着。貴重品・身の回りの品だけ身につけ、宿泊用の荷物をフロントに預けて国立国会図書館関西館へ徒歩で移動（約5分）。
10：30	国立国会図書館関西館。10時40分～、研修室にて図書館の説明。その後、11時40分頃まで館内見学ツアー。見学終了後、向かい側のショッピングセンター（アピタけいはんな）まで徒歩にて移動。
12：00	ショッピングセンターで昼食のため一時解散。昼食は各自で実費払い。ショッピングセンター内や近くに多数の飲食店やフードコートがあります。
13：10	昼食解散をした場所に再集合。集合の後、徒歩でけいはんな記念公園へ。
13：20	けいはんな記念公園水景園に入園。園内周遊の後、公園内の無料ゾーンを経て徒歩で宿泊先へ移動。
15：00	宿泊先でチェックイン。部屋割を指示のあと各自で宿泊する部屋へ。
16：00	ホテル内の指定場所に集合。中会議室（セミナー室）へ移動。
16：15	研修会 中田 哲氏（本学卒業生、元・大阪府立高校校長）による講演と意見交換。演題「教師という仕事の難しさ、やり甲斐、楽しさ」。17：45頃まで。
18：00	ホテルのレストランにて夕食（ビュッフェ＝バイキング形式）。19：00まで。
19：00	夕刻の研修会の隣の部屋にてワークショップ形式の懇親会（飲食無し）。 おおよそ20：45まで。
20：50	各自で所定の部屋へ（飲酒厳禁＝学則により厳罰があります）。 適宜就寝（就寝時は男女同室厳禁）。★他の宿泊客もおられます。大学の質を問われるので、くれぐれも礼節・良識・品格ある行動をお願いします。
5月15日（日）	
8：00	ホテルのレストランにて朝食（ビュッフェ＝バイキング形式）。出発時刻まで自由時間（二度寝での寝過ごし厳禁、集合時間厳守）。忘れ物の無いように。
9：45	貸切りバスで木津川市内の科学教育施設「きつづ光科学館ふおとん」へ。
10：00	きつづ光科学館ふおとん到着。館内入場後に簡単な説明を受けて、施設見学（自由行動）。
11：30	当日指定する場所に再集合。貸切バスにて大学へ。12：30頃に到着予定。
	*大学まで戻るよりも再集合場所が帰宅に便利な諸君は、ここで離脱できます。ただし、ここからの交通費は自己負担をお願いします。

表2について若干の補足解説を施す。国会図書館の見学後は一時解散し、隣接するショッピングセンター内で各自が自由に昼食を摂ることにした。費用は各自の実費負担である。昼食後は、けいはんな記念公園まで歩き、水景園という日本庭園に団体有料入場することにした。そ

こから歩いてホテルに戻り、夕刻に上述の講演会、ホテルでの夕食（バイキング形式）、夕食後の企画、就寝、これらを1日目の計画とした。2日目はホテルでの朝食（バイキング形式）、朝食後に借り上げバスで「きつぷ光科学館ふおとん」に移動して見学、そののち科学館で待機していた借り上げバスで大学に戻り正午過ぎに解散とした。

Ⅲ. 新入生合宿研修の実施

3.1 第1日目；集合から昼食まで

合宿研修初日の2011（平成23）年5月14日（土）の午前9時30分、学生課西の掲示板前に社会領域専攻の新入生36人が遅れずに集合した。引率教員の香川と荻野が点呼をとって確認し、大学にいた武田教授に見送られて定刻に出発した。バスの車内では、香川が地理学的な観点から軍都伏見の歴史と都市構造を解説し、交通路としての国道24号線、外環状線、第二京阪道、阪神高速京都線、京滋バイパス、JR奈良線、近鉄京都線、京阪本線などの説明も付け加えた。バスは国道24号線を逸れて外環状線から第二京阪道の側道へ進路を取ったため、多少の時間ロスが生じ、京奈和自動車道を経由したものの、国会図書館への到着が20分ほど遅れてしまう原因となった。

一行は宿泊関係の荷物を「けいはんなプラザホテル」に預け（バスはここまで）、筆記具と身の回り品だけで国会図書館へ向かったが、国会図書館との約束の時間に遅れることが確実だったため、香川は荻野に荷物を委ねて国会図書館前で先にバスを降り、同館職員との待ち合わせ場所に急いで事情を説明した。幸いに快く理解が得られ、一行が揃った段階で館内に入った。

まず1階の研修室で国会図書館の紹介ビデオを視聴し、同館職員との質疑応答の時間をとった（写真1）。続いて地下1階の閲覧室、さらに地下2階以下の書庫を案内してもらった。充実した設備と膨大な量の資料に驚いた学生も多かったようだ。とりわけ無人コンテナ搬送システム、資料保護のため書庫が温度変化の少ない地下にあること、火災の折にも水を使わずに消火を図る先進防火システムなどは大きな関心を集めた。施設見学後に再び研修室に戻って若干の質疑応答ののち国会図書館を辞し、向かい側のショッピングセンター（アピタけいはんな）近くの交差点で同じ場所への再集合時間（13時10分）を指示し、昼食のために一時解散した。

人数が多い場合の昼食に関しては、弁当や食堂の手配に骨が折れることから、香川が地理学関係の現地実習科目（「地理学特講」や「地理学研究」）で取り入れている昼食一時解散の方法を援用した。学生たちには実費の負担をお願いすることになるが、好きなメニューが選べるので総じて好評だった。

3.2 第1日目：昼食後の再集合から夕食まで

昼食を終えて一時解散地点に再集合した一行に対して、香川が眼前に広がる景観について地理学的な説明を行った。それらを列挙すると、計画的な施設配置と用途地域区分、歩車分離、景観への配慮（電柱地中化、国会図書館とデザイン統一を図った精華町の給水塔）などである。しかし、昼食後で気が緩んでいたためか効果は大きくなかったようである。我われは「けいは



写真1 国立国会図書館関西館での質疑の様子
(2011年5月14日, 香川貴志 撮影)



写真2 けいはんな記念公園「水景園」の景観
(2011年5月14日, 香川貴志 撮影)

んな記念公園」のフリーゾーンを通り抜け、有料区域の水景園に至り、団体入場券でそこに入場した。水景園は一定数以上の団体の場合は事前申し込みが必要なので、下調べの段階でそれを済ませておいた。

水景園は回遊式の日本庭園で落ち着いた風情が京都らしさを上手く醸し出している（写真2）。あまりハードに動くべき場所でもないうえに、学生たちが疲れてしまって夕刻の講演会で眠るといけないので、1時間ほどのフリータイムとして集合場所を指定した後に自由散策とした。もっとも大半の者が気の合う友人とグループを作って散策していたようである。午前中に訪問した国会図書館と子ども広大な場所であるため、感動とともに癒しの効果も得られたように思う。

散策を終えて水分補給の必要もあったため、近くのホームセンターで飲料などを買いたい者



写真3 ミニゲームを取り入れた講演会の様子
(2011年5月14日, 香川貴志 撮影)

には許可し、昼食後に再集合した地点へ15時に集まることにした。再集合の後、徒歩約10分で宿泊施設の「けいはんなプラザホテル」に到着し、チェックインした。部屋割はツインルームとトリプルルームがあったが、事前に引率教員がホテル側と相談しつつ便宜的に振り分けた。汗ばむ陽気に歩く距離も意外と長かったため、シャワーを浴びる者にも配慮して1時間弱の休憩時間を設定し、ホテル内の講演会会場へ16時に集まるようにした。引率者2名は講演会前に講師に挨拶とお願いを済ませておいた。

講演会の講師は、既述の中田哲氏、講演のタイトルは「教師という仕事の難しさ、やりがい、楽しさ」である。学生たちは会場で緊張の面持ちであったが、中田氏が本学OBであることを香川から紹介すると、緊張の糸が少し解けたようである。講演会はミニゲームやワークショップも取り入れたものとなり、中田氏の教育現場での豊富なキャリアが存分に発揮された(写真3)。不登校生徒への対応など、講師の経験に基づいた実践的な話題も学生たちの反応が良かった。こうした講演は、野外活動も行われる合宿研修では総じて印象が良くないものだが、後述するように「最も印象的だった行事」として回答した学生も複数いた。

講演会の終了後、全員で講師を見送り、直ぐにホテル内のレストランでバイキング形式の夕食となった。食欲旺盛な学生達にとって、ホテルバイキングは新入生合宿研修では最も嬉しい夕食であったのか、楽しく充実した贅沢な時間を過ごせた。夕食の後には19時から21時までイベント(ご当地クイズ大会)を企画していたため、食事の前に場所と時間を告示しておいた。

3.3 第1日目：夕食後から就寝まで

夕食後のイベントは、夕刻の講演会会場の隣室で行った。机や椅子の配置は、講演会ともどもホテルの外郭団体である「株式会社けいはんな」と事前に打ち合わせていたため、こちらがセッティングすることは不要であった。料金も学術利用の割引料金を適用してもらえた。

イベントの「ご当地クイズ」に先立って、参加学生36人を、6人ずつ6グループに分けた。その際、生年月日の月日を教え合って元日から大晦日に向けて順に並んでもらい、1月から順々



写真4 ご当地クイズの作問グループを編成中
(2011年5月14日, 香川貴志 撮影)

に6人ずつのグループを構成した(写真4)。こうすることで従来話したことがなかった学生とも会話ができて相互理解が深まると考えた方策である。「ご当地クイズ」は各グループに机を与え、グループ内での相談を経てから、4つの設問を各々のグループから出題してもらうワークショップ形式をとった。ワークショップが効果的であるのは、空閑(2002)でも指摘されているが、学生たちの盛り上がりは相当なものだったので大成功であったといえよう。クイズ作成に先立って、引率教員から作問例とプレゼンテーションの見本を示した。そのクイズの一例を示すと次のようなものである。

問 京都教育大学よりも入学定員が少ない教育系大学を次から一つ選べ。

① 北海道教育大学函館分校, ② 宮城教育大学, ③ 奈良教育大学, ④ 福岡教育大学

上の設問の正解は③であるが、同じ教育系国立単科大学への関心や理解を深める効果は得られたように思う。学生たちが作成したクイズは地理的・歴史的に意味があるものから芸能界やスポーツ界の細部に詳しい者でなければ理解不可能なものまでさまざまであった。しかし、グループでクイズを作成する時間、他のグループから出題されるクイズをグループ内で相談しつつ解く時間とも、入学から頻繁に強要される自己紹介に食傷気味の学生たちが、従来とは違う楽しみを得たことは反応を見ていて容易に想像できた。

なお、最後まで楽しみが維持できるように、グループごとの解答用紙を交換し採点の後、成績優秀グループから景品をプレゼントした。1位と2位のグループの全員には入試課から提供してもらった大学グッズ(クリアファイル、ボールペン)を、3位以下のグループの全員にも100円ショップで購入したダブルクリップ1個ずつを進呈した。これらのプレゼント企画は学生たちにも評判が良かったので、同様の試みをする場合には参考となろう。景品で経費が必要なものについては合宿研修の経費からの支出が可能である。今回は「ご当地クイズ」で必要な画用紙や水性マジックなども合宿研修経費から支出した。ご当地クイズの終了後は、翌日の予

定を周知して各自が部屋に戻った。

3.4 第 2 日目：起床から解散まで

第 2 日目も好天に恵まれ、全員が揃っての朝食を済ませ、9 時 40 分にホテルロビーに集合した。ホテルの玄関口には大型バスが横付けされており、9 時 50 分に宿舎を発った。ここから前日に歩いた経路を眺めつつ精華大通りを進み、京奈和自動車道の精華学研 IC から木津 IC を経て「きつぷ光科学館ふおとん」に至った。開館時間の午前 10 時早々に団体入場したが、学校団体の教育の一環であることを下見の際に告げていたため、入場料は無料であった。昼食は大学帰着後に各自で摂るようにコース立案したため、見学時間は 1 時間半程度を設定し、大型バスは科学館の大型車両駐車場で待機してもらった。不要な荷物を荷物入れや車内に留置しておけるため便利であった。

入館後、最初に科学館の趣旨や設備の説明を工作室・研修室で科学館の職員から受け、その後は他の入館者にも配慮して団体行動を避けて自由行動とした。この科学館では、小学校の理科実験のようなさまざまな展示物に触れて楽しみながら「学び」を体験できるため、特に小学校教員を志す学生たちに好評であった。もっとも展示物自体は社会領域よりも理科領域に近い。したがって、上述の科学館職員による説明の際に、科学館が学研都市計画の中で配置されたものであることを香川が補足説明した。

学生たちは自由に館内を楽しんだ後、11 時 20 分に科学館の玄関前に再集合した。ここから大学まで京奈和自動車道を経由して 1 時間弱の行程である。解散は正午を少し過ぎてしまったが、比較的早く帰着できたため、学生たちは疲れも少なく翌日からの大学生活に戻れたはずである。

IV. 参加学生が回答したアンケートの分析 —まとめに代えて「今後の新入生合宿研修のために」—

新入生合宿研修は多くの国立大学で実施されていると考えられるが、実施状況をまとめた論考が極めて少ないため、その改善に向けた取組みが口承による経験的なものになりがちな欠点がある。今年度の実施に際しても専攻内での経験で組み立てていった部分が大きい。しかし、他大学の例で参考になったものもある。たとえば、ワークショップの有効性を示した空閑(2002)、レクリエーションが多過ぎると効果が上がらないことを合宿研修実施後のアンケート結果から指摘した仲間ほか(2010)などがそれである。とりわけ後者は、引率教員が 4 名であることから、教員による自己評価が参考になる。今年度の社会領域専攻の場合は引率教員が 2 名であるので、教員による自己評価は学生から寄せられた無記名アンケート調査の結果の分析と解釈で代用する。

学生たちにはアンケート用紙を帰路のバス車中で、荻野の指導と説明のもとで配布し、回収漏れが無いように工夫したが、1 名が提出を忘れて 35 人分を集めた。回収率の高さからして、次年度以降にアンケートを実施する場合にも参考にできよう。アンケートにおける質問項目は次に列挙する 6 項目である。

問1 新入生合宿研修に行く前は、どんな気持ちでしたか？ (いずれかに☑)

- 大変楽しみだった 少し楽しみだった 何も考えなかった
 行くのが面倒だった 全く行く気がしなかった

問2 新入生合宿研修を終えて、どんな気持ちですか？ (いずれかに☑)

- とても良い行事 良い行事 特段に何も感じない
 無くてよい行事 無くしたほうがよい行事

問3 宿泊場所について、どのように考えますか？ (いずれかに☑)

- 少しの追加料金 (今回は 1000 円) があっても、今回のような施設がよい。
 もっと合宿らしい 4～5 人部屋で修学旅行の宿のような施設がよい。
 林間学校で使われるキャンプ場のような施設がよい。
 その他の施設が良い ⇒ どのような施設がいいですか ⇒ _____

問4 1泊での行き先について、どのように考えますか？ (いずれかに☑)

- 京都府内 京都府以外の近畿地方 近畿地方以外

問5 今回の新入生合宿研修の個別の内容で最も良かったものに◎、2番目に良かったものに○を付け、それぞれについての評価理由を簡潔に書いてください。

- () 国立国会図書館関西館 () けいはんな記念公園 () 中田 哲先生の講演会
() 夕食後のミーティング「ご当地クイズ」 () きつづ光科学館ふおとん

◎の理由 ⇒ _____

○の理由 ⇒ _____

問6 新入生合宿研修には上回生が「フェロー」というアドバイザーで参加する制度があります。来年に新入生合宿研修が実施される場合、フェローを務めてもよいという人は氏名を書いてください (書かなくても一向に差し支えありませんし、他の項目と関連させることはありません=そのために当該問は裏面に配置しています)。

⇒ チャンスがあればフェローをしてもよい人の記名欄 ()

今年度は手配しなかったものの、上回生フェロー (キャンプのカウンセラーに相当する合宿研修のサポート担当) を同行させることが多いため、その人材確保が問6の目的である。結果的には7名の学生の記名が得られた。

続いて問1～5についての結果をまとめる。なお問1と問2はクロス集計を施したため、1枚の表に結果をまとめた。

新入生合宿研修は、学生たちからいかなる評価を受けているのだろうか。その実態を知るための質問が問1と問2である。そして、これらの結果をクロス集計することで、合宿前後の評価の変動、合宿研修の必要性などを把握することができる。クロス集計の結果は表3にまとめたが、この表を精査すると、1名が評価ポイントダウン (5p. → 4p.) の他は、29名が合宿研修の前後での評価が同等 (表3中の網掛け部分)、5名が評価アップ (2p. → 4p. が3名、3p. → 5p. が1名、4p. → 5p. が1名) であった。合宿研修の前後とも最高ランクの5p. 評価をした者が過半数の20名に及ぶことも併せて考えると、合宿研修は学生たちからも期待されている行事と判断できようし、今回の合宿研修は総じて高い評価を得たと結論づけられる。

表 3 新入生合宿研修の前後における学生からの評価分布

学 生 の 評 価	行事後					行事前の 評価別 小計
	1pt. 無くした ほうが よい行事	2pt. 無くても よい行事	3pt. 特段に 何も 感じない	4pt. 良い行事	5pt. とても 良い行事	
1pt. 全く行く気がしなかった						0
2pt. 行くのが面倒だった				3		3
3pt. 何も考えなかった			1		1	2
4pt. 少し楽しみだった				8	1	9
5pt. 大変楽しみだった				1	20	21
終了後の項目別小計			1	12	22	35

資料：2011（平成 23）年度新入生合宿研修参加学生へのアンケート

注 1) 新入生合宿研修への参加学生は 36 名だが、アンケートは 1 名が未提出のため、総数は 35 名分。

表 4 宿泊施設についての意向

① 少しの追加料金（今回は 1,000 円）があっても、今回のような施設がよい	17
② もっと合宿らしい 4～5 人部屋で修学旅行のような施設がよい	17
③ 林間学校で使われるキャンプ場のような施設がよい	2
④ その他	0

資料：2011（平成 23）年度新入生合宿研修参加学生へのアンケート

注）複数回答は認めなかったが、1 名が①と③の 2 つを選択したため、総数が 36 になっている。

合宿研修は宿泊を伴うため、宿泊施設の選定が極めて重要である（岩瀬ほか；2000）。他方、従来は今年度を含めて、合宿研修の計画を立案する時期との関係で、学生たちの意向を調べる以前に引率教員が宿泊施設を選定してきた。今年度はこれまでに使用したことの無いハイグレードホテルを利用したため、これを機会にして学生たちの意向を問うてみた。同じ傾向が毎年得られるとは限らないが、その傾向を知ることはできよう。問 3 の集計結果は表 4 にまとめた。なお、複数回答は認めなかったが、1 名の学生が表中の①と③に二重回答したため、回答総数は 36 通になっている。結果、今回利用したようなホテル、修学旅行で使うような 4～5 人部屋の施設が、各々 17 票を集めた。林間学校で使うようなキャンプ場は希望が多くなかった。4～5 人部屋の施設を最近の学生が好むことは、香川が担当している「地理学特講」や「地理学研究」の現地実習の際にも見られる現象であり、個室志向が強いのではないかとの憶測を覆す結果である。したがって、宿泊施設の選定に際しては、キャンプ場のような施設を避ければ、ホテル形式でも旅館形式でも大きな問題は生じないと考えられる。

例年、新入生合宿研修を設計する際に悩まされるのが、行き先をどこにするかという問題である。京都教育大学の場合、新入生合宿研修の日程は 1 泊 2 日で、範囲は原則的に近畿圏内が隣接地域という要件があるため、問 4 では表 5 にまとめた 3 つの選択項目に絞って問いかけた。結果、①京都府内と②京都府以外の近畿圏内とが拮抗した。この結果から大学が定めた要件を満たす範囲内で目的地を定めても不都合は生じないと判断できる。

表5 1泊での行き先についての意向

① 京都府内	14
② 京都府外の近畿圏内	16
③ 近畿圏外	5

資料：2011（平成23）年度新入生合宿研修参加学生へのアンケート

表6 今回の合宿研修で1番目と2番目によかった行事・場所

	「1番よかった」	「2番目によかった」
① 国立国会図書館関西館	5	8
② けいはんな記念公園	7	12
③ 教職に向けての講演会	3	3
④ 夕食後のミーティング（ご当地クイズ）	19	7
⑤ きつづ光科学館ふおとん	3	7

資料：2011（平成23）年度新入生合宿研修参加学生へのアンケート

注1) 「1番よかった」を3箇所、「2番目によかった」を2箇所選んだ者が1名いる。

注2) 「1番よかった」を1箇所、「2番目によかった」を2箇所選んだ者が1名いる。

学生たちの興味や関心を探るため、今回の訪問地やイベントについての順位付けを問5で要請し、その集計結果を表6にまとめた。このような順位付けは甲乙がつけがたい場合、はなはだ難しいものとなるが、少しでも回答しやすいよう配慮して、第1位と第2位についてのみ問いかけた。同じ順位のものについては複数回答を認めなかったが、表6の欄外の注記のように一部に複数回答があった。「1番良かった」ものとして最多票数を集めたのは④「夕食後のミーティング」で過半数の19票に及んだ。理由を記す欄には「相互理解が深まった」「盛り上がったのが良かった」「単純に楽しかった」などが多く記された。

「1番良かった」で次いで多くの票を集めた②「けいはんな記念公園」は散策を楽しんだだけであったが、「2番目に良かった」では最多票数を集めており、お仕着せのイベントだけでない時間を確保することの大切さがうかがえる。理由には「広い場所でゆっくりのんびりできた」という回答が目立った。これらに対して、「学習系」ともいえる①国立国会図書館関西館、③教職に向けての講演会、⑤きつづ光科学館ふおとんは、突出して多くの票を集めることはなかった。しかし、これらの学習系を選んだ学生たちは、総じて感動した内容を細かく丁寧に記す傾向にあり、引率者にとっては多様な学生が存在することを知る契機となった。先述した仲間ほか（2010）でも指摘されたように、レクリエーションに特化しないことが重要であり、多彩な内容を限られた日程に盛り込んでいく必要が示唆されているといえよう。

高等学校の教科でみれば、地理歴史科と公民科の多様な分野が志向される社会領域専攻では、テーマを絞った新入生合宿研修を実施することが難しい。しかし、「環境」「現代の生活」「都市と農村」などのテーマを設定するなどの方策は可能であろうし、今回の新入生合宿研修で得られた知見を基盤にすれば、一層の改善を図るのが決して難しくないことも自明である。

謝辞 今回の新入生合宿研修でお世話になった諸機関の皆様に対し、末筆ながら記して御礼申し上げます。

参考文献

- 稲村數矢（1990）「平成元年度新入生合宿研修アンケート調査結果」『岐高専紀要』25, pp.83-86.
- 稲村數矢（1991）「平成2年度新入生合宿研修アンケート調査結果」『岐高専紀要』26, pp.105-108.
- 岩瀬誠一・山田 章・川村浩司・久保田敬三・島雄 元（2000）「平成12年度新入生合宿研修の報告」『長岡工業高等専門学校研究紀要』36-2, pp.69-78.
- 空閑浩人（2002）「ワークショップを取り入れた新入生合宿研修の試み」『教育実践研究（福岡教育大学）』10, pp.1-8.
- 田村真広・遠藤真澄（2000）「川湯エコミュージアムセンターにおける自然体験学習—新入生合宿研修での新たな試み—」『環境教育研究（北海道教育大学）』3, 175-180.
- 仲間正浩・上間陽子・片岡 淳・西岡尚也（2010）「琉球大学教育学部新入生合宿研修の実施の準備と結果について—2009年の実施結果とアンケート集計—」『教育実践総合センター紀要（琉球大学）』17, pp.143-154.
- 堀 孝彦（1981）「自立と連帯—1981年度新入生合宿研修全体会『大学生活について—』」『福島大学教育学部論集』33, pp.39-54.